

## 委員会の動き

### 総務文教委員会

#### ■生涯学習センターについて

生涯学習センターは、市民のさまざまな学習活動をサポートし、ふれあいの場を提供する施設として、山部公民館、富良野市博物館、文化財保護、自然体験学習のための「ふらの森の教室」といった機能を複合的に有し、年間の平均利用者数は施設全体で約4万人であり、地域住民はもとより、市街地から、また本市以外の団体等も利用している状況です。

この調査から、生涯学習センターは積極的に多くの事業を実施し、さまざまな学習活動支援が行われていることを、委員全員が認識したところです。

議論から本委員会では、生涯学習センターが情報発信と体験や学習を充実し継続することに、市民の生活に寄り添った身近な存在となり、市民と協働の取り組みがより円滑に進むものと考えます。この積み重ねにより、いつそう本市の教育や文

### 保健福祉委員会

#### ■生活保護世帯の実態

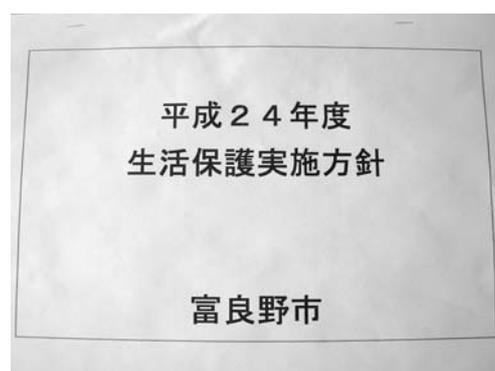
化の向上が図られ郷土への親しみが深まるものと認識しました。また、生涯学習センターは、さまざまな調査により先人が築いた歴史や文化など郷土に関する資料を集積し、いまを生きる市民の暮らしをも記録し、より多くの人々に伝える大切な役割を担っていると考えます。本委員会は、このような記録の集積が本市の財産であると捉え市民に還元できるよう意識し、今後の取り組みを進めることが重要との結論に達しました。生涯学習センターについては、市民が一度は訪れ富良野の「人・自然・歴史」の文化と財産を享受できるように情報の発信と還元の仕事みづくりを願うものです。



生涯学習センター内の博物館視察

本市の実態について報告します。平成24年10月現在の生活保護認定世帯数は242世帯、315人となっています。世帯類型別に見ると、高齢世帯が104世帯、110人、母子世帯が11世帯、30人、障害世帯が45世帯、61人、傷病世帯が59世帯、74人、その他の世帯が23世帯、40人という状況です。また、平成23年度に生活保護を廃止した世帯がある反面、生活保護に関する相談は年々増加傾向です。また、生活保護年齢別構成では315人中半数を超える182人が60歳以上の高齢者です。生活保護世帯への相談体制は、訪問格付けとしてAからEまで区分し実施されています。人口千人当たりで何人が生活保護を受けているかという保護率として千分率（パーミル）で標記し、全道の市平均で33.8パーミル、本市は13.2パーミルで大きく下回っています。

今後の生活保護に対する本委員会の意見として、1点目が傷病をきっかけに生活保護の開始事由が多く、普段からの健康管理の励行です。2点目が高齢、障害、傷病各世帯が多い状況ですが、自立するために働いている方々が66人もおられ、委員会としても想定を上回る努力として受け止めました。今後において生活の自立に向け更なる支援体制が必要です。3点目は、不正受給問題を受け、国において見直しに着手されつつあることから、何らかの対策が講じられるものと推測しますが、今後においてこれらの対策に速やかに対応し遺漏のない生活保護行政を望みます。



本市の生活保護実施概要